

適正利用・エコツーリズムワーキンググループの経過報告・今後の予定

報告日：2018年8月24日

【適正利用・エコツーリズム WG に関する特記事項】

本 WG は、地域連絡会議適正利用・エコツーリズム部会と合同で 2010 年から「適正利用エコツーリズム検討会議」として開催している。検討会議は、「保全と利用に関する調整を管理主体関係者と専門家、地域関係者が同じ立場で検討する場」である。そして知床世界自然遺産地域管理計画および知床エコツーリズム戦略に基づき、世界遺産地域の資源の適正な利用及びエコツーリズムを含む観光の持続可能化を推進している。その基本原則は次のとおり。

- 遺産地域の自然環境の保全とその価値の向上
- 世界の観光客への知床らしい良質な自然体験の提供
- 持続可能な地域社会と経済の構築

検討会議では、戦略に基づく提案制度による提案の検討とモニタリングを毎回議題にしている。なお、長期モニタリング及び既存ルールの見直しなど、WG として検討すべき課題の増加に伴い、専門家同士の意見交換が必要と判断し、平成 30 年度から適正利用・エコツーリズム WG の単独開催を復活する。

1. 知床エコツーリズム戦略の運用状況

提案が承認され、現在取組が進められている 3 件の状況は以下のとおりである。また、過去の提案も含めた検討状況は別紙のとおりである。

案件名	提案者	運用状況と課題
赤岩地区昆布ツアー	羅臼町観光協会	半島先端部での文化資源を活用した教育目的のツアーと位置づけて試行している。平成 29 年度のツアー参加者は 0 人であったが、平成 30 年度は計 86 人（ツアー催行 8 回）が参加した。また、地域内の合意形成及び社会教育を目的に羅臼町民を 2 名ツアーに招待している。 参加者が増加した一方、ツアーの経営的持続可能性や地域としてのツアー実施の意味について検討が必要。
外国人旅行者向け情報発信の強化	知床財団	ルールを意識して知床を楽しむために、外国人に向けた情報発信の強化を目的とした各種事業を行っている。 平成 30 年度は知床情報玉手箱の情報更新や Facebook に

<p>続き</p>		<p>よるヒグマ情報の公式的発信など、これまでの事業を継続するとともに、部会関係者による共同事業の検討を行う予定である。</p> <p>インバウンドに対して、文化差を越えて、保全と利用の調整の仕組みを共有するには経費がかかる。知床財団だけの負担では限界があるので、経費支援先の探索や提供サービス拡充と合わせた受益者負担の検討が必要。</p>
<p>厳冬期の知床五湖 エコツアー事業</p>	<p>斜里町観光 協会</p>	<p>冬期閉鎖されていた道道知床公園線を除雪し、人数制限、ガイド同伴のうえで冬期の知床五湖をまわるエコツアーを実施している。平成 29 年度は自主除雪にて実施し、平成 30 年 1 月 22 日から 3 月 22 日のツアー期間中、計 2,314 名が参加した。</p> <p>利用コントロールが特に必要な時期・場所であるため、参加者増加に伴う今後の利用コントロールの方法、運営や資金計画、等検討を進める。</p>

2. 個別地域における取り組み状況と課題

○知床五湖における利用調整地区制度の運用

高架木道と地上遊歩道（ヒグマ活動期及び植生保護期）の運用を維持する。地上遊歩道の更なる利用の安定化や質の高い自然体験を提供するため、開園～7月をヒグマ活動期、8月～閉園を植生保護期とすることを検討している。

○カムイワッカ地区におけるマイカー規制

平成 30 年も引き続き 8 月 1 日～25 日の 25 日間でマイカー規制を実施する。なお、混雑緩和自体を目的としたものから、利用者へのサービス向上と周囲の自然環境保全の効果も持つ「前向きな」交通規制への移行を検討する必要があるので、他の WG との協働や連携を提案したい。

○ウトロ海域におけるケイマフリをシンボルとした協働

知床ウトロ海域環境保全協議会として、知床海鳥 WEEK や自然センターでの企画展等の各種イベントや海鳥のモニタリングを実施予定。知床ウトロ海のハンドブックの売上収入については、海鳥及びその生息環境の保全活動と普及啓発活動のバランスを取り投資することを実施主体に提案したい。

3. 主な検討事項や今後の予定

- ・既存ルールの見直しを含めた議論・検討を推進するため、知床国立公園利用のあり方懇談会を平成 29 年度及び平成 30 年度に実施し、知床半島の利用に関する地元意見をまとめる。平成 30 年度は全 3 回実施予定。
- ・長期モニタリング及び既存ルールの見直しを進めるため、検討会議とは別に適正利用・エコツーリズム WG を開催する。平成 30 年度は検討会議に合わせて 2 回開催予定。
- ・地域外の資源利用者とのコミュニケーションをとるため、地域外の観光専門家の参加が平成 29 年度の第 1 回の会議で合意された。平成 30 年度から北海道運輸局が参加する予定。今後は、運輸局と連携し、民間関係者の検討会議参加を検討する予定。
- ・適正利用・エコツーリズム検討会議を 2 回開催予定（第 1 回：平成 30 年 9 月 27 日、第 2 回：平成 31 年 2 月予定）。